氷見市埋蔵文化財調査報告第58冊

氷見市内遺跡発掘調査概報Ⅰ

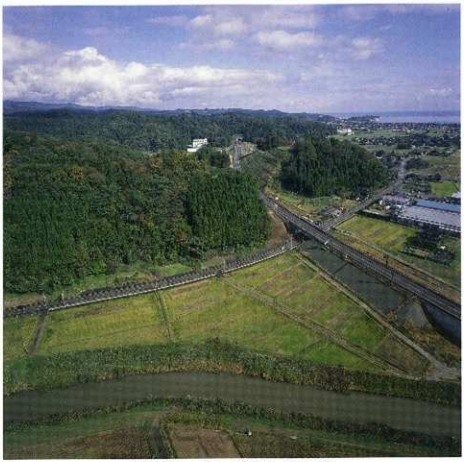
七分一地区経営体育成基盤整備事業に伴う試掘調査ほか

2011年3月

氷見市教育委員会

巻首写真１　七分一Ｂ遺跡（西から）

巻首写真２　七分一古大門遺跡（南から）



巻首写真３　七分一堂口遺跡（南西から）

巻首写真４　七分一堂口遺跡（南東から）

氷見市埋蔵文化財調査報告第58冊

氷見市内遺跡発掘調査概報Ⅰ

七分一地区経営体育成基盤整備事業に伴う試掘調査ほか

2011年3月

氷見市教育委員会

序

東に富山湾を隔てた霊峰立山を仰ぐ氷見市は、古くから海の幸、山の幸に恵まれ、人々の生活の場として、数多くの文化遺産を生み育んできました。これら、郷土に残る文化財は先祖より受け継がれてきたものであり、私たちはあらためてその史的、文化的価値を再認識しながら、末永く子孫に引き継いでゆかねばなりません。

本書で報告するのは、平成22年度に氷見市教育委員会が実施した試掘調査の概要です。

3件の開発事業に伴う試掘調査のうち、経営体育成基盤整備事業に伴う七分一地区の試掘調査では、七分一古大門遺跡で古代を中心とする遺物が確認されました。この遺跡については、今後、事業が進められていくなかで、適切な保護に努めてまいりたいと考えています。

調査対象となった5つの遺跡のなかで、新たな発見につながったのは1遺跡のみでしたが、こうした調査の積み重ねこそが、氷見の歴史を明らかとしていくことにつながるものと考えます。今回の調査の成果が今後の文化財保護の一助となるとともに、地域の歴史への関心、理解につながることを願っております。

今回の試掘調査にあたりましては、富山県高岡農林振興センターおよび七分一地区をはじめとする地元関係者の皆様に多大なるご協力をいただきました。この場を借りまして、厚くお礼申し上げます。

平成23年3月

氷見市教育委員会
教育長　前辻　秋男

例　言

1　本書は、富山県氷見市内において平成22年度に実施した埋蔵文化財包蔵地試掘調査報告書である。

2　調査は、市内の開発行為に伴い、氷見市教育委員会が実施した。

3　調査費用は、国庫補助金・県費補助金の交付を受けた。

4　調査対象となった埋蔵文化財包蔵地と調査原因、遺跡の略号は、以下のとおりである。

ほ場整備経営体育成基盤整備事業に伴う試掘調査
七分一B遺跡（SBIB）
七分一堂山遺跡（SBIDK）
七分一古大門遺跡（SBIFD）
柳田・ひかり第一統合保育園建設事業に伴う試掘調査
松田江北遺跡（MDEK）
朝日山公園整備事業
朝日大山遺跡（ASOY）

5　ほ場整備経営体育成基盤整備事業に伴う試掘調査の概要については第1章から第3章に、その他2件の試掘調査の概要については附章に記した。

6　調査事務局は、氷見市教育委員会生涯学習課に置き、課長補佐荒井市郎、副主幹大野究、主任学芸員廣瀬直樹が調査事務を担当し、課長實住哲郎が統括した。

7　調査および本書の執筆・編集は、廣瀬が担当した。また遺物の実測・トレースは、廣瀬が中心となり、整理作業員三矢嘉京・日南静が行った。

8　発掘作業員の派遣は社団法人富山県シルバー人材センター連合会に委託し、氷見市シルバー人材センターから後述する作業員の派遣を受けた。

9　七分一地区試掘調査対象地の空中写真の撮影は、日本海航測株式会社に委託した。

10　出土遺物と調査に関わる資料は、氷見市教育委員会生涯学習課が保管している。

11　調査・本書作成にあたり、下記の方々・機関から多大なご教示・ご協力を得た。記して感謝申し上げる。

富山県高岡農林振興センター・富山県教育委員会生涯学習・文化財室・富山県埋蔵文化財センター・氷見市立博物館・氷見市福祉課・氷見市都市計画課・七分一地区・有限会社山正設備・東工業株式会社

目　　次

第１章：ほ場整備経営体育成基盤整備事業に伴う七分一地区試掘調査の概要…… 1
　第１節：遺跡の位置と歴史的環境…… 1
　第２節：調査に至る経緯と経過…… 3
第２章：七分一地区試掘調査の成果…… 4
　第１節：分布調査の成果…… 4
　第２節：試掘調査の概要…… 4
　第３節：試掘調査の成果…… 5
　（１）七分一Ｂ遺跡…… 5
　（２）七分一堂口遺跡…… 6
　（３）七分一古大門遺跡…… 9
第３章：まとめ…… 14
附　章：平成 22 年度実施の試掘調査概要…… 15
　第１節：柳田・ひかり第一統合保育園建設に伴う松田江北遺跡試掘調査…… 15
　第２節：朝日山公園整備事業に伴う朝日大山遺跡試掘調査…… 16
引用・参考文献…… 17
報告書抄録…… 29

表　目　次

第１表　七分一Ｂ遺跡　基本層序…… 5
第２表　七分一堂口遺跡 基本層序（１）…… 6
第３表　七分一堂口遺跡 基本層序（２）…… 7
第４表　七分一古大門遺跡　基本層序…… 9
第５表　七分一古大門遺跡　遺構検出レベル…… 9
第６表　七分一古大門遺跡出土鉄滓等数量一覧…… 13

挿図目次

第１図　周辺の遺跡…… 2
第２図　七分一地区分布調査対象範囲図…… 3
第３図　遺物実測図（１）七分一Ｂ遺跡…… 5
第４図　七分一Ｂ遺跡トレンチ位置図…… 6
第５図　遺物実測図（２）七分一堂口遺跡…… 7
第６図　七分一堂口遺跡トレンチ位置図…… 8
第７図　七分一古大門遺跡トレンチ位置図…… 10
第８図　遺物実作図（３）七分一古大門遺跡…… 11
第９図　遺物実測図（４）七分一古大門遺跡…… 12
第10図　遺物実測図（５）七分一古大門遺跡…… 13
第11図　松田江北遺跡位置図…… 15
第12図　朝日大山遺跡位置図…… 16

写真図版目次

巻首写真1　七分一B遺跡（西から）
巻首写真2　七分一古大門遺跡（南から）

巻首写真3　七分一堂口遺跡（南西から）
巻首写真4　七分一堂口遺跡（南東から）

図版1
1．遺跡周辺空中写真（1947年米軍撮影）
2．遺跡周辺空中写真（1963年撮影）

図版2
1．七分一B遺跡（西から）
2．七分一古大門遺跡（南から）

図版3
1．七分一堂口遺跡（南西から）
2．七分一堂口遺跡（南東から）

図版4
1．七分一B遺跡調査区近景（南東から）
2．七分一B遺跡調査区近景（南西から）
3．T47完掘状況
4．T48北壁
5．T49完掘状況
6．T49南壁
7．作業風景
8．作業風景

図版5
1．七分一堂口遺跡調査区近景（北東から）
2．七分一堂口遺跡調査区近景（北西から）
3．T3完掘状況
4．T4完掘状況
5．T20遺構検出状況
6．T21遺構検出状況（杭列）
7．作業風景
8．作業風景

図版6
1．七分一古大門遺跡調査区近景（南西から）
2．七分一古大門遺跡調査区近景（南東から）
3．T24完掘状況
4．T27完掘状況
5．T32完掘状況
6．T32北壁
7．T32遺構検出状況
8．T32遺構検出状況

図版7
1．T41完掘状況
2．T41南壁
3．T41遺構検出状況
4．T41遺構検出状況
5．T44完掘状況
6．T45完掘状況
7．作業風景
8．作業風景

図版8
1．松田江北遺跡調査区近景（南西から）
2．松田江北遺跡調査区近景（北東から）
3．T2完掘状況
4．T2南壁
5．T3完掘状況
6．T3南壁
7．作業風景
8．作業風景

図版9
1．朝日大山遺跡調査区近景（南西から）
2．朝日大山遺跡調査区近景（北東から）
3．T1完掘状況
4．T6完掘状況
5．T7遺構検出状況
6．T12完掘状況
7．作業風景
8．作業風景

図版10　遺物写真（1）

図版11　遺物写真（2）

第１章　ほ場整備経営体育成基盤整備事業に伴う七分一地区試掘調査の概要

第１節　遺跡の位置と歴史的環境（第１図）

氷見市は、富山県の西北部に位置し、能登半島の基部東側にあたる。昭和27年の市制施行から昭和29年までに旧太田村を除く氷見郡１町17村が合併し、現在の氷見市が成立した。面積は約230㎢、人口は約５万３千人である。

市域は、北・西・南の三方が標高300～500ｍの丘陵に取り囲まれ、これら丘陵から派生する小丘陵により、西条・十三谷・上庄谷・八代谷・余川谷・灘浦の６つの区域に分けられる。また市の東側は、約20㎞の海岸線をもって富山湾に面している。

調査対象である七分一は、上庄川中流の北岸に位置する。北側を丘陵山地、南側を上庄川に囲まれて川沿いに広がる小平坦地である。なお、七分一は七歩一とも記され、古くは滑川村と称したとも伝えられる。

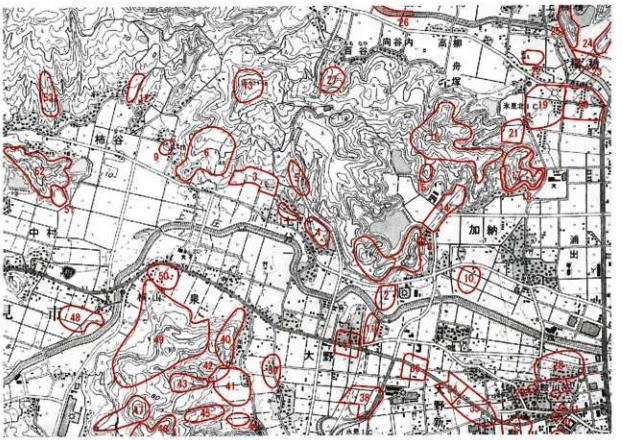
七分一が所在する上庄川の中流域には、比較的安定した平野が開けており、弥生時代の終わりごろから積極的な開発が進んだ。古墳時代には、中下流の平野を望む丘陵上に、前期から後期まで継続的に多くの古墳が築かれており、古墳時代を通して氷見の生産基盤を支えた地域と推定されている。七分一でも、弥生時代後期には土地の利用が確認できる。七分一遺跡は、七分一の北側丘陵に立地する。弥生時代後期後半から末にかけての遺物を中心に、古墳時代から中世の遺物が出土している。

七分一周辺の古墳群としては、柿谷土谷山古墳群と七分一古墳、加納南古墳群が所在する。柿谷土谷山古墳群は、中期から後期の古墳群で、東西２支群に円墳23基・方墳１基がある。明治40年に直径約20ｍの「丸山」を崩した際に遺物が出土したと伝えられる。七分一古墳は、弥生末から古墳時代初期の方墳である。加納南古墳群は、中期後半から後期の円墳10基程度からなる古墳群である。平成18年度の能越自動車道建設に伴う発掘調査では、群中３基で埋葬施設が確認され、太刀・挂甲・銅鏡・須恵器（筒形器台・杯）・水晶製勾玉・三輪玉などが出土している。

古代の遺跡としては、今回の調査対象となった七分一Ｂ遺跡・七分一古大門遺跡が所在している。

中世の七分一は、在地領主の窪寺氏の領地となっていた。天文年間（1532～1555）の「阿努荘年貢員数注文案」には、阿努荘の年貢780貫文のうち、120貫文余が七分一と号し、窪寺方押領とされている。窪寺氏は、波多野氏流河村氏の一族で、信濃国水内郡窪寺を本貫地とする。越中への入国は、承久の乱（1221年）を機に、名越（北条）朝時の越中国守護就任に伴い、阿努荘内に地頭職を得て在地領主化したもの、とされる。観応の擾乱で反幕府行動をとった桃井直常の与党の立場をとったため、所領を没収されたが、国人としての在地での活動は続いていたとみられる（氷見市1998・2000）。また、現在氷見市丸の内にある浄土真宗本願寺派の光明寺は、元天台宗で、応安４年（1371）に七分一に創建された、という（氷見市2000・氷見市教委1993）。

この中世の遺跡としては、柿谷大口遺跡・七分一Ｂ遺跡・七分一古墓がある。このうち七分一古墓は、七分一古墳の西側、七分一神社の旧社地背後にある２基の方形塚で、旧社地に寄せられている中世の石造物と関連する中世墓や供養塚と考えられる。また、七分一北側の丘陵頂部に所在する高塚遺跡は、城郭伝承地であるが遺構は確認できない。



第１図　周辺の遺跡（S＝１／25,000））

1　七分一Ｂ遺跡（古代・中世）
2　七分一堂口遺跡（古代・中世）
3　七分一古大門遺跡（古代・中世）
4　七分一古墳・古墓（古墳・中世）
5　七分一遺跡（弥生後～終・古墳後期）
6　柿谷土谷山古墳群（古墳中～後期）
7　加納南古墳群（古墳中～後期）
8　加納中程経塚（不明）
9　柿谷大口遺跡（中世）
10　加納桜打遺跡（古代）
11　大野中遺跡（古代）
12　柿谷椎木出遺跡（不明）
13　高塚遺跡（中世）
14　加納谷内遺跡（縄文・古代・中世・近世）
15　加納新池古墳群（古墳）
16　木谷城跡（南北朝）
17　加納経子山古墳群（古墳初～後期）
18　加納横穴群（古墳後～飛鳥白鳳）
19　稲積天坂北遺跡（古代・中世・近世）
20　稲積川口遺跡（縄文・飛鳥・古代・中世）
21　稲積天坂遺跡（弥生・古代・中世・近世）
22　稲積前田遺跡（弥生・古代・中世）
23　稲積オオヤチ南遺跡（古代・中世）
24　稲積オオヤチ古墳群（古墳）
25　稲積ウシロ古墳群（古墳）
26　余川川河床遺跡（縄文・古墳・古代・中世）
27　余川寺ヶ谷内遺跡（古代・中世・近世）
28　鞍川金谷遺跡（縄文中・弥生後・古墳）
29　鞍川Ａ中世墓（中世）
30　鞍川Ｂ中世墓（中世）
31　鞍川諏訪杜遺跡（中世・近世）
32　鞍川Ｃ遺跡（中世）
33　鞍川Ｄ遺跡（古代・中世・近世）
34　鞍川中Ａ遺跡（古代・中世・近世）
35　鞍川中Ｂ遺跡（弥生・古代・中世・近世）
36　ＫＢ－２遺跡（古代）
37　ＫＢ－３遺跡（古代）
38　大野江洞遺跡（弥生～近世）
39　大野沢遺跡（縄文・古代）
40　泉往昌古墳群（古墳前・中世）
41　泉Ｃ遺跡（古代）
42　泉Ａ遺跡（縄文・古代）
43　泉谷内口古墳群（古墳後期）
44　泉Ｂ遺跡（古墳・古代・中世）
45　中尾喜城古墳群（弥生末～古墳初か）
46　千久里城跡（南北朝・戦国）
47　上田古墳群（弥生末・古墳初～中期）
48　中村大横遺跡（古代・中世）
49　泉古墳群（古墳中～後期）
50　泉横山遺跡（古代）
51　中村横穴群（飛鳥白鳳）
52　中村城跡（戦国）
53　柿谷石戸谷内古墳群（古墳中～後期）

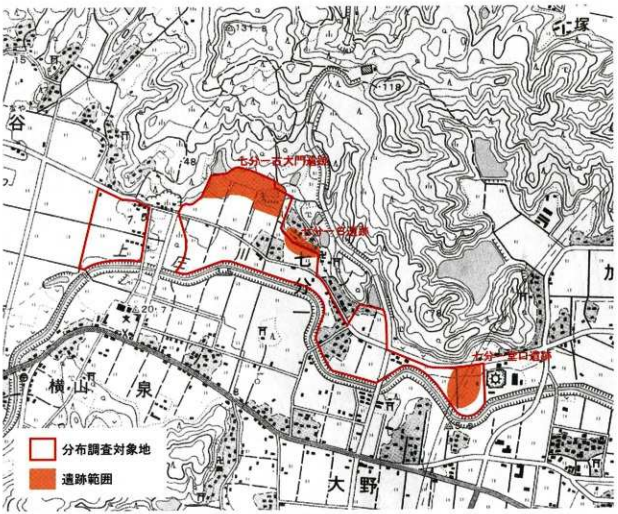
第２節　調査に至る経緯と経過

平成 19 年 12 月 4 日、富山県高岡農地林務事務所（現・高岡農林振興センター）指導課計画班より氷見市教育委員会に対し、氷見市大浦地区および七分一地区にて区画整理事業が計画されていることが知らされたため、計画地内の埋蔵文化財包蔵地に関する協議を実施した。その結果、平成 20 年度に大浦地区の試掘調査を実施し、七分一地区についてはそれに後続するかたちで、調査を実施することになった。

平成 21 年度には、事業対象地の分布調査を実施し、あらためて埋蔵文化財包蔵地の現況確認を行った。分布調査は、平成 21 年 12 月 2 日から平成 22 年 3 月 12 日まで、実働 8 日で実施した。対象面積は 22.6 haである。その結果、新たに七分一古大門遺跡を発見し、事業対象地の埋蔵文化財包蔵地は 3 件となった。

分布調査の結果を受け、平成 22 年度に試掘調査を実施することになった。調査対象地は事業対象地内の 3 遺跡で、調査は、稲刈りの終了後、平成 22 年の秋に実施することとして計画を進めた。

平成 22 年 9 月 14 日には、七分一地区の役員を対象とした説明会を実施し、試掘調査に対する理解を求めた。



第２図　七分一地区分布調査対象範囲図（S＝1／15,000））

第2章 七分一地区試掘調査の成果

第1節　分布調査の成果（第2図）

平成21年12月から翌3月にかけて実施した七分一地区の分布調査では、周知の埋蔵文化財包蔵地である七分一B遺跡・七分一堂口遺跡では遺物の散布を確認することはできなかった。一方で、七分一地区の北西部、西ヶ谷内池及び新堤池がある丘陵裾の微高地周辺で、古代を中心とする遺物の散布を確認することができた。採集した遺物は、ほとんどが古代須恵器であった。この遺物散布範囲は、『七分一村史』記載の俗称地名「古大門」から「七分一古大門遺跡」とした（七分一村史同好会1999）。

この分布調査の結果、今回試掘調査の対象とする遺跡は、七分一B遺跡・七分一堂口遺跡・七分一古大門遺跡の、合わせて3遺跡となった。

第2節　試掘調査の概要

平成22年度に実施した試掘調査の概要については、以下のとおりである。

調査対象面積：約43,000㎡
発掘調査面積：約913.6㎡
調 査 期 間：平成22年10月18日より平成22年11月5日（実働11日）
発 掘 作 業 員：石上　悟・上　俊男・河原敏明・濱手克友・藤井次政・森川昌一・南　幸栄
吉崎勝海
（以上、氷見市シルバー人材センター）

試掘調査では、機械力および人力によって試掘トレンチ・試掘坑を計50基設定し、調査を行った。掘削は、基本的に地山面の確認を主眼とし、土層および遺構の検出状況の記録を行った。湿地帯・河川跡等の痕跡等では、でき得る限り下層まで掘削し、層位の確認を行った。なお、すでに田起こしされている場所については調査対象から除外せざるを得なかった。また地下に送水管が埋設されている地点があったため、試掘トレンチの位置をずらさざるを得なかった箇所、試掘トレンチではなく試掘坑とした箇所がある。

第３節　試掘調査の成果

（１）七分一Ｂ遺跡

調査対象地

七分一Ｂ遺跡は、上庄川の左岸の丘陵裾、標高約６ｍに立地し、現況は、水田・宅地・畑地である。平成６年度の氷見市教育委員会による分布調査で発見された。分布調査で採集された遺物は、古代須恵器杯Ｂが１点、中世珠洲焼擂鉢が１点の合計２点である。今回の事業に先立つ分布調査では遺物の散布は確認できなかった。

調査の状況（第４図・図版４）

トレンチを４基設定して調査を行った。いずれのトレンチも、耕作土下に整地土層があり、さらにその下層に黄灰色シルト層が厚く堆積する。遺物は、古代須恵器、近世磁器が少量出土したのみで、遺構も確認できなかった。調査区全体が上庄川の氾濫原であり、過去に採集されたものも含め、遺物は二次堆積の可能性が高いと考えられる。

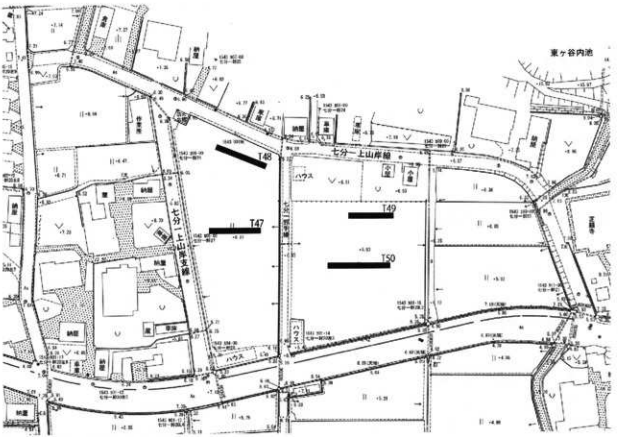
第１表　七分一Ｂ遺跡　基本層序

Ⅰ層	耕作土	10～15cm	灰黄褐色シルト
Ⅱ層	整地土	0～40cm	にぶい褐色粘質土・黄灰色粘質土
Ⅲ層	湿地堆積	70cm～	黄灰色シルト・褐灰色シルト

出土遺物（第３図・図版10）

調査では、古代須恵器・近世陶磁器など９点が出土した。そのうち８世紀代の須恵器杯Ｂを図示した。高台径10.2cmを測る。

第３図　遺物実測図（１）　七分一Ｂ遺跡



第４図　七分一Ｂ遺跡トレンチ位置図（Ｓ＝１／1,500）

（２）七分一堂口遺跡

調査対象地

七分一堂口遺跡は、上庄川左岸、北側に張り出した丘陵と上庄川に挟まれた平地、標高約2.5～5.6mに立地する。現況は水田であり、中央を南北に能越自動車道が通る。能越自動車道の建設事業に伴う分布調査で発見された遺跡である。

平成17年度、能越自動車道の建設に先立ち、本発掘調査が実施されている。調査では、弥生時代後期後半～古墳時代初頭の谷、古代の土坑・自然流路・中世の掘立柱建物・井戸・溝・土坑が確認されている（財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所2006）。

調査の状況（第６図・図版５）

トレンチを22基設定して調査を行った。上庄川に近い範囲については、上庄川の氾濫原とみられ、耕作土下に、シルト層が厚く堆積し、遺構・遺物ともに確認されなかった。また、かつてのほ場整備の影響も広い範囲で受けているものとみられる。一方、北側の丘陵裾に近い地点では、耕作土直下で、旧上庄川と推測される落ち込みの肩部と、落ち込みに沿って設けられた杭列を確認した（T21・T22）。これらは比較的新しいものと推測される。またT20では、黒褐色シルト層の落ち込みの中から平安時代と見られる土師器椀が出土した。また、能越自動車道建設地では本調査が実施されているため、能越自動車道近接地にはトレンチを追加して調査を行ったが、遺物・遺構ともに確認できなかった。

第２表　七分一堂口遺跡　基本層序（１）Ｔ１～19

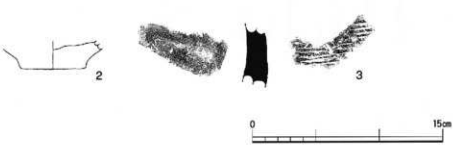
Ⅰ層	耕作土	10～30cm	褐灰色粘質土
Ⅱ層	盛土層	20～35cm	明黄褐色～にぶい黄褐色粘質土・灰オリーブ色砂・灰黄褐色シルト
Ⅲ層	旧上庄川か	20cm～	灰色シルト・にぶい黄褐色シルト
Ⅳ層	遺構面・地山		にぶい黄褐色砂

第３表　七分一堂口遺跡　基本層序（２）Ｔ20～22

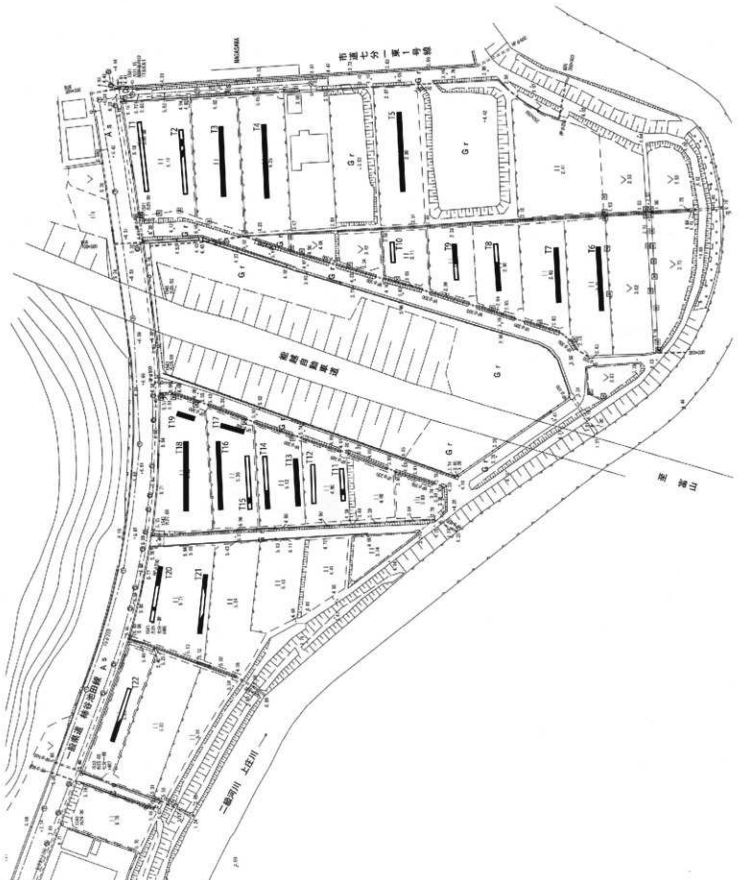
Ⅰ層	耕作土	10cm	褐灰色粘質土
Ⅱ層	盛土層	20cm	黄灰色粘質土
Ⅲ層	遺構面・地山		にぶい黄褐色～暗灰黄色砂質土
	落ち込み埋土		黒褐色シルト

出土遺物（第５図・図版10）

調査では、古代須恵器・古代土師器・中世珠洲焼・近世陶磁器など16点が出土した。ほとんどが細片だったが、２点を図示した。２は、柱状高台の土師器椀である。底外面は回転糸切りと見られるが、摩滅が著しい。高台径5.0cmを測る。平安時代のものか。３は中世珠洲焼の壺甕類体部破片である。表面の摩滅が著しい。



第５図　遺物実測図（２）　七分一堂口遺跡



第6図　七分一堂口遺跡トレンチ位置図（S＝1／1,500）

（3）七分一古大門遺跡

調査対象地

七分一古大門遺跡は、今回の事業に先立つ分布調査で発見された遺跡である。上庄川左岸の丘陵裾部、標高約8～12mに立地し、現況は水田・畑地である。遺跡の北東と北西に溜池が築造されている。分布調査では、丘陵縁辺部を中心に、古代の遺物が採集された。

調査の状況（第7図・図版6・7）

トレンチを24基設定して調査を実施した結果、調査対象範囲の中央部で、土坑・溝・ピット等が検出された。また、遺構が検出された範囲から、古代須恵器を中心とする遺物が多く出土した。遺構検出範囲は北側の丘陵裾部にあたる。遺構が検出されなかった範囲については、過去のほ場整備の影響を受けており、上庄川に近い地点は上庄川の氾濫原となっているものと推測される。また、遺構が検出されたトレンチを中心として鉄滓が出土している（表6）。特に、T33では38点と多くの鉄滓が出土し、合わせて焼粘土塊が6点出土している。

七分一古大門遺跡では、遺構の検出状況、遺物の出土状況から、第7図で示した範囲が保護対象となるものと判断した。保護対象面積は5,236㎡を測る。

第4表　七分一古大門遺跡　基本層序

Ⅰ層	耕作土	10～20cm	にぶい黄褐色粘質土
Ⅱ層	盛土層	20～30cm	褐色～灰褐色粘質土
Ⅲ層	遺構面・地山		明褐色粘質土・にぶい黄褐色粘質土
	遺構埋土		褐灰色粘質土
	落ち込み埋土		黒褐色～灰オリーブ色シルト

第5表　七分一古大門遺跡　遺構検出レベル（保護対象範囲）

トレンチ	レベル（m）	検出遺構	トレンチ	レベル（m）	検出遺構
T23	—	—	T32	8.608	ピット・溝・落ち込み
T25	9.810	落ち込み	T33	7.738	土坑・溝・落ち込み
T26	—	—	T34	7.702	落ち込み
T27	9.429	溝・木杭	T41	10.650	溝・落ち込み
T28	9.100	落ち込み	T43	9.710	落ち込み
T31	8.487	ピット・落ち込み			

出土遺物（第7～9図・図版10・11）

調査では、古代須恵器・古代土師器・中世土師器・中世青磁・中世珠洲焼・近世陶磁器・鉄滓など188点が出土した。そのうち54点を図示した。

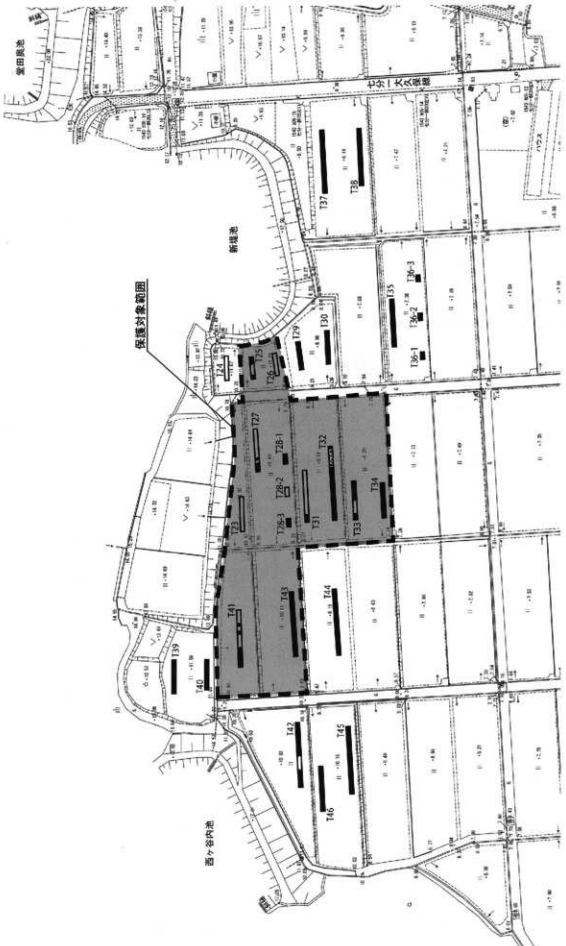
4は古墳時代須恵器の杯H身である。底外面に沈線風の段差がある。5～44は古代須恵器である。杯A（5～8）、杯B蓋（9～14）、杯B身（15～21）、壺瓶類（22～29）、壺甕類の体部破片（30～46）がある。25は短頸壺の口縁部破片だが、内外面に窯糞が付着する。また、図示していない資料ではかなり焼き膨れた壺甕類の体部破片や、降灰の著しいものも出土している。おおむね8世紀代のものを中心とする。

47～54は中世珠洲焼である。擂鉢（47）、ロクロ壺（48）、甕（49）、壺甕類体部破片（50～54）がある。年代は、47の卸目が無いタイプの擂鉢が吉岡編年Ⅱ～Ⅲ期、49の甕口縁部が吉岡編年でⅣ期のものであろう。

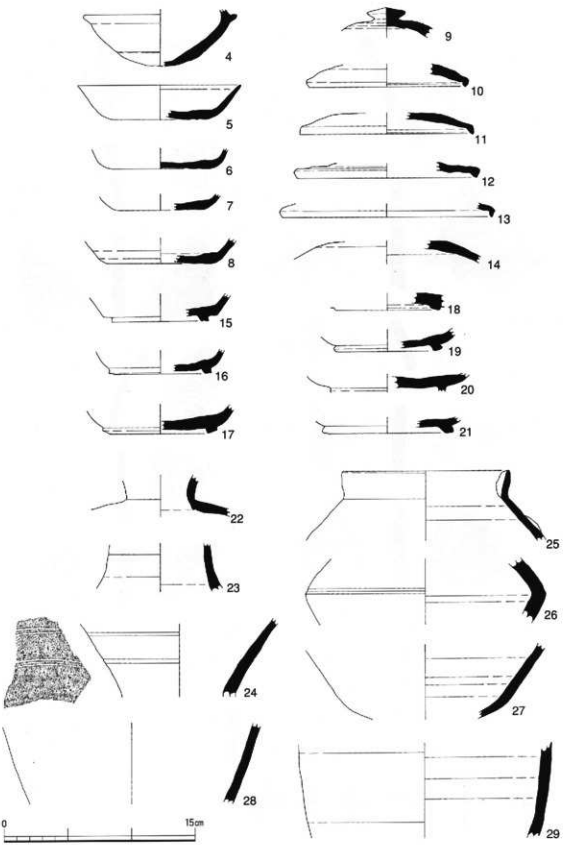
55は青磁椀の底部破片で、見込みに花文を施す。高台径は5.8cmを測る。

56・57は近世越中瀬戸焼。56は天目茶碗、内外面に鉄釉を施す。57は小型壺で、内外面に錆釉を施す。

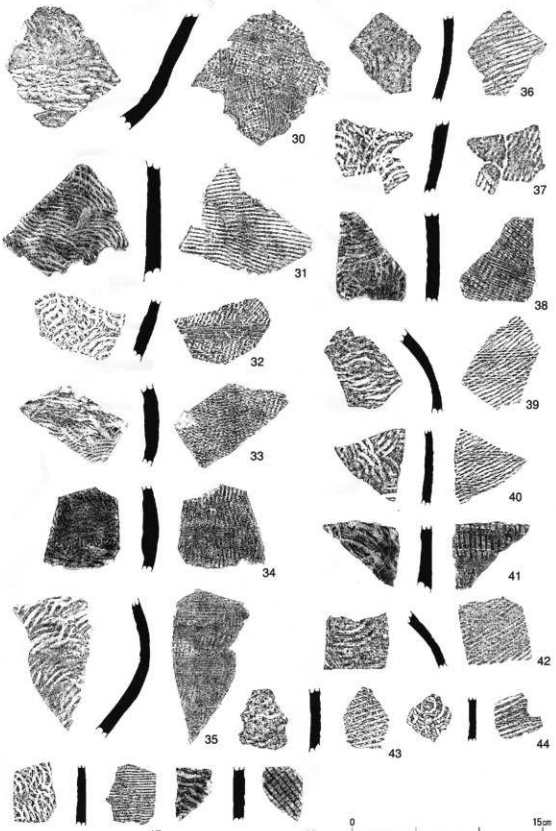
なお、図示した遺物のほかに、砥石製の石造物が1点、砥石が1点出土しているほか、鉄滓や焼けた粘土塊がまとまって出土している。なお、鉄滓・粘土塊が出土したトレンチ・出土の数量は第6表のとおりである。



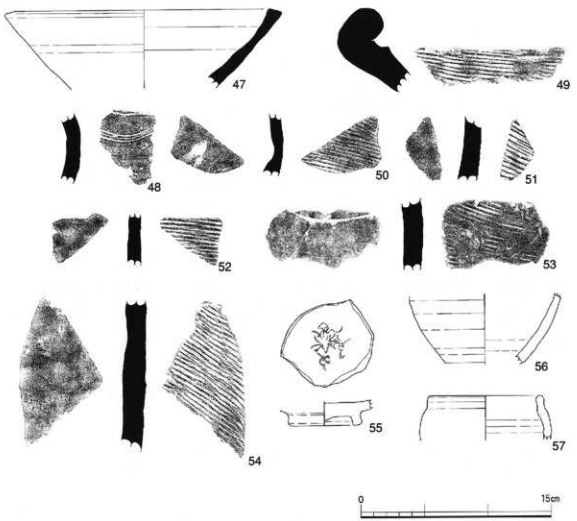
第７図　七分一古大門遺跡トレンチ位置図（S＝1／1,500）



第８図　遺物実測図（３）　七分一古大門遺跡



第９図　遺物実測図（４）　七分一古大門遺跡



第10図　遺物実測図（5）　七分一古大門遺跡

第6表　七分一古大門遺跡出土鉄滓等数量一覧

トレンチ	鉄滓	焼粘土塊
T25	1	—
T31	8	—
T32	3	—
T33	38	6
T41	3	—
合　計	53	6

第3章　まとめ

今回、七分一地区を対象に実施した試掘調査の結果は次のとおりである。

1．調査は、七分一地区経営体育成基盤整備事業に先立ち、七分一B遺跡・七分一堂口遺跡・七分一古大門遺跡を対象として実施した。
2．七分一B遺跡では、古代須恵器、近世陶磁器などが少量出土したが、遺構は検出されなかった。遺跡周辺は、上庄川の氾濫原と考えられ、平成6年度の分布調査で採集された遺物も含め、二次堆積したものである可能性が高い。七分一B遺跡については遺構がなく、遺物もごく少量であったため、保護措置は不要と判断した。
3．七分一堂口遺跡では、古代須恵器・古代土師器・中世珠洲焼・近世陶磁器などが少量出土した。また、遺構としては時期不明の溝と上庄川の旧流の可能性がある落ち込み等が検出された。遺跡中央を通る能越自動車道の建設に先立ち本発掘調査が実施され、弥生時代後期後半～古墳時代初頭・古代・中世の遺構が検出されているが、今回の調査対象地内ではその広がりを確認することはできなかった。遺物もごく少量であったため、保護措置は不要と判断した。
4．七分一古大門遺跡は、今回の試掘調査に先立つ分布調査で新たに確認した遺跡である。試掘調査では、調査対象範囲の中央部で、土坑・溝・ピットを検出した。また遺構が検出された範囲から、古代須恵器を中心とする遺物が多く出土した。鉄滓や焼粘土塊が多く出土していることから、本遺跡は古代の製鉄関連遺跡の可能性がある。なお、本遺跡の北西に所在する柿谷椎木出遺跡では鉄滓が採集されており、何らかの関連が予測される。
5．今回、3遺跡で実施した試掘調査の結果、保護対象と判断したのは、遺物の出土量が多く、遺構の存在が確認された七分一古大門遺跡である。保護範囲は第7図に示した範囲で、保護対象面積は5,236㎡である。

以上が、七分一地区で実施した試掘調査の成果である。現在、高岡農林振興センターと、七分一古大門遺跡の保護について協議を進めているところである。今回の調査の成果に基づき、適切な保護に努めていきたいと考えている。

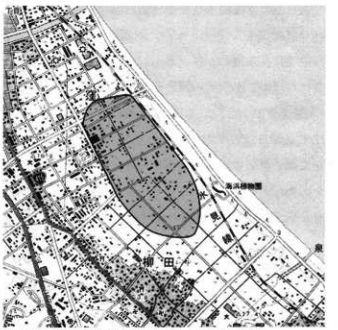
附章　平成22年度実施の試掘調査概要

第1節　柳田・ひかり第一統合保育園建設に伴う松田江北遺跡試掘調査

遺跡の概要

松田江北遺跡は、海岸沿いの砂丘上、標高約4mに立地する。平成5年度に氷見市教育委員会が実施した分布調査で発見された遺跡である。氷見市街から柳田にかけて南北1km、東西500mの広い範囲に縄文時代・弥生時代・古代・中世・近世の遺物が散布している（氷見市2002）。

これまで、遺跡範囲内の都市計画道路環状南線建設、一般住宅及び集合住宅建設等に先立つ試掘調査を実施してきたが、砂層が厚く堆積し、また近世以降の畑作による攪乱を受けていることから、本調査に至った例はない。



第11図　松田江北遺跡位置図（S＝1／25,000）

調査の概要

所　在　地：氷見市窪
調査対象面積：4260.17㎡
調 査 主 体：氷見市教育委員会
調査担当者：氷見市教育委員会生涯学習課　主任学芸員　廣瀬　直樹
調 査 期 間：平成22年5月10日（のべ1日）
調 査 原 因：柳田・ひかり第一統合保育園建設
発掘作業員：上岡　優・高畑政信（以上、氷見市シルバー人材センター）

調査結果

トレンチ設定範囲の西側では、表土下約40㎝で、過去に建設されていた北陸農政局氷見農業水利事業所のコンクリート基礎を検出。基礎とその下の根石層は約30㎝程度で、その下には地山の砂層が堆積する。遺構としては、溝を検出したが、遺物が伴わず年代は不明である。遺物は出土しなかった。

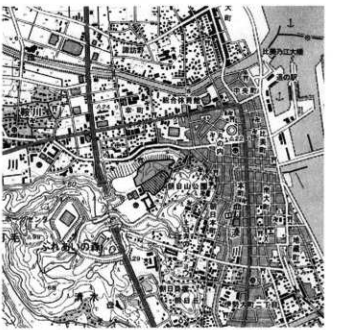
同じく砂丘地帯である島尾地内で、砂層を2m程度掘削した地点から土器片が出土した例があったため、湧水レベルまでの掘削を実施したが、純砂層が続くのみであった。

若干の遺構は確認できたものの年代は不明であり、また建設予定地の多くは過去の開発により攪乱を受けている。よって工事による影響は軽微であり、着工に問題ないと判断した。

第２節　朝日山公園整備事業に伴う朝日大山遺跡試掘調査

遺跡の概要

平成 13 年度、氷見市教育委員会が実施した朝日山公園整備事業に伴う朝日山城跡周辺部の試掘調査で発見された。試掘調査では、弥生時代終末期の土器が出土し、土坑が検出されたほか、中近世の遺物の散布も見られた（氷見市教委 2002）。平成 21 年度には、本格化する朝日山公園の整備に先立ち、平成 13 年度調査対象地以外の範囲を対称に分布調査を実施したところ、さらに中近世の遺物の散布を確認したため、遺跡の範囲を拡大した。



第 12 図　朝日大山遺跡位置図（S＝1／25,000）

調査の概要

所　在　地：氷見市幸町

調査対象面積：13,000㎡

調 査 主 体：氷見市教育委員会

調査担当者：氷見市教育委員会生涯学習課　主任学芸員　廣瀬　直樹

調 査 期 間：平成 22 年 5 月 10 日～ 13 日（述べ 4 日）

調 査 原 因：朝日山公園整備

発掘作業員：上岡　優・河上外之・高畑政信・津里　喬（以上、氷見市シルバー人材センター）

調査結果

調査は、氷見高校裏側の荒地および、畑地を中心に実施した。なお調査を予定していた範囲のうち、竹林となっている箇所については、竹の密集のため調査が不可能であった。

バックホーにてトレンチを掘削したところ、おおむね現表土 20 ～ 30㎝程度で、褐色粘質土～砂の地山層を検出した。部分的に、土坑・小穴・溝などの遺構を検出したが、遺物が伴わず、年代は不明である。遺物は、表土中から数点の近世磁器が出土した。

若干の遺構は確認できたものの年代は不明であり、本調査は不要と判断した。ただし、遺構が確認された範囲に園路や四阿の建設が計画された場合には、再度協議を行い立会調査等の判断を行うものとし、また調査不可能であった竹林についても同様に、掘削する計画となった時点で協議して判断するものとした。

引用・参考文献

児島清文 1962『氷見市地名考』氷見報知新聞社

財団法人富山県文化振興財団 埋蔵文化財調査事務所 2006『平成 17 年度　埋蔵文化財年報』

七分一村史同好会 1999『七分一村史』

氷見市 1998『氷見市史』3 資料編 1 古代・中世・近世（1）

氷見市 1999『氷見市史』9 資料編 7 自然環境

氷見市 2000『氷見市史』6 資料編 4 民俗、神社・寺院

氷見市 2002『氷見市史』7 資料編 5 考古

氷見市 2006『氷見市史』1 通史編 1 古代・中世・近世

氷見市教育委員会 1993『平成三・四年度　氷見市寺社調査報告書　浄土真宗本願寺派の部』

氷見市教育委員会 2002『朝日大山遺跡 都市計画公園朝日山公園整備事業に伴う試掘調査概要』氷見市埋蔵文化財調査報告第 36 冊

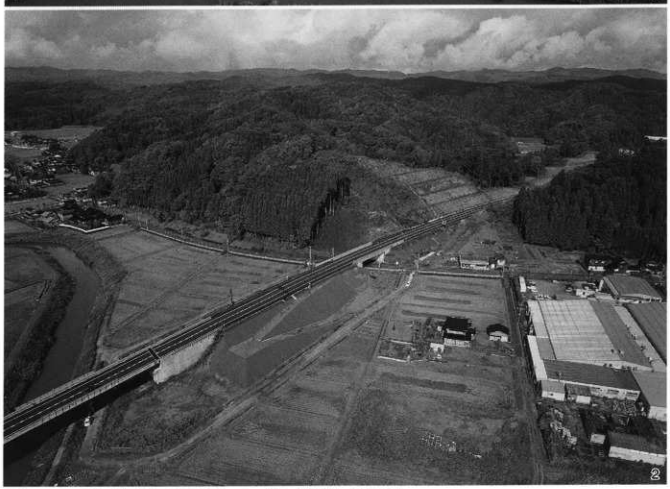
氷見市教育委員会 2008『氷見市遺跡地図 ［第 3 版］【改訂版】』氷見市埋蔵文化財調査報告第 51 冊

氷見市教育委員会・富山大学考古学研究室 1995『氷見市埋蔵文化財分布調査報告Ⅱ 1994 年度』氷見市埋蔵文化財調査報告第 17 冊

吉岡康暢 1994『中世須恵器の研究』吉川弘文館

図版1　1．遺跡周辺空中写真（1947年米軍撮影）国土地理院　2．遺跡周辺空中写真（1963年撮影）国土地理院

図版2　1．七分一B遺跡（西から）　2．七分一古大門遺跡（南から）

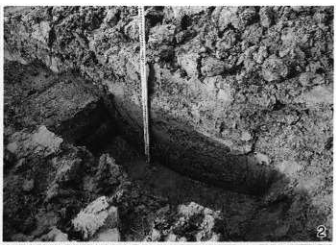


図版３　１．七分一堂口遺跡（南西から）　２．七分一堂口遺跡（南東から）

図版４　１．七分一Ｂ遺跡調査区近景（南東から）　２．七分一Ｂ遺跡調査区近景（南西から）　３．Ｔ47完掘状況
４．Ｔ48北壁　５．Ｔ49完掘状況　６．Ｔ49南壁　７・８．作業風景

図版5　1．七分一堂口遺跡調査区近景（北東から）　2．七分一堂口遺跡調査区近景（北西から）　3．T3完掘状況
4．T4完掘状況　5．T20遺構検出状況　6．T21遺構検出状況（杭列）　7・8．作業風景

図版6　1．七分一古大門遺跡調査区近景（南西から）　2．七分一古大門遺跡調査区近景（南東から）
3．T24完掘状況　4．T27完掘状況　5．T32完掘状況　6．T32北壁　7・8．T32遺構検出状況

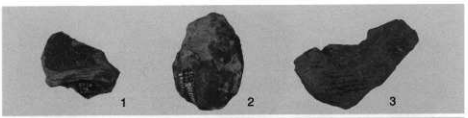


図版7　1．T41完掘状況　2．T41南壁　3・4．T41遺構検出状況　5．T44完掘状況　6．T45完掘状況
7・8．作業風景

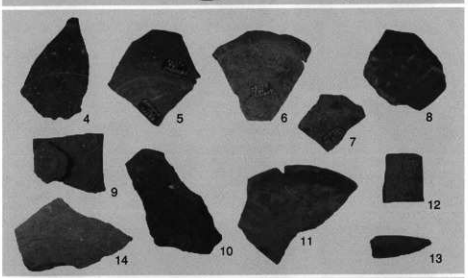
図版8　1．松田江北遺跡調査区近景（南西から）　2．松田江北遺跡調査区近景（北東から）　3．T2完掘状況
4．T2南壁　5．T3完掘状況　6．T3南壁　7・8．作業風景

図版９　１．朝日大山遺跡調査区近景（南西から）　２．朝日大山遺跡調査区近景（北東から）　３．Ｔ１完掘状況
４．Ｔ６完掘状況　５．Ｔ７遺構検出状況　６．Ｔ12完掘状況　７・８．作業風景

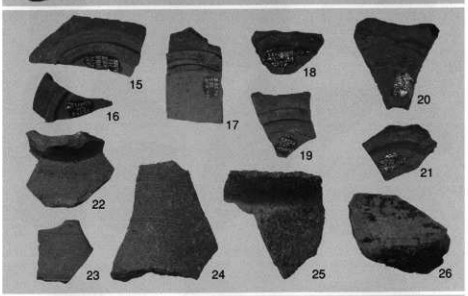
七分一B遺跡・七分一堂口遺跡
出土遺物



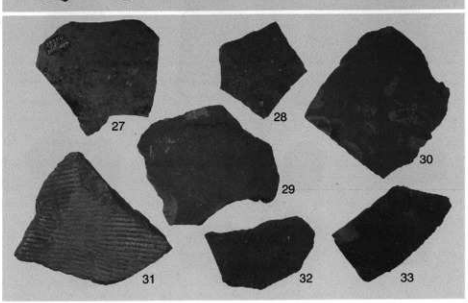
七分一古大門遺跡
出土遺物（1）



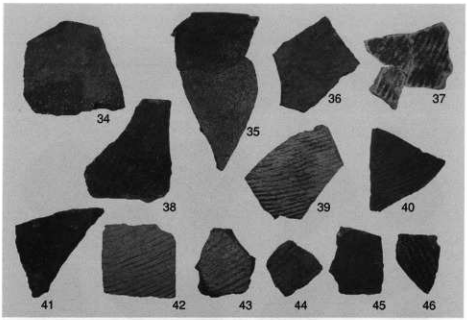
七分一古大門遺跡
出土遺物（2）



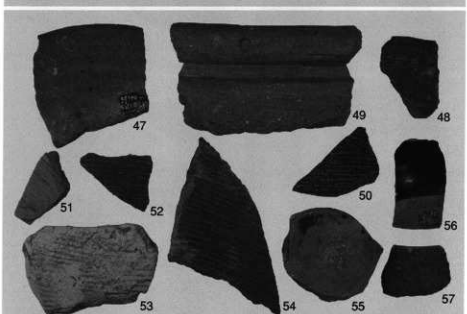
七分一古大門遺跡
出土遺物（3）



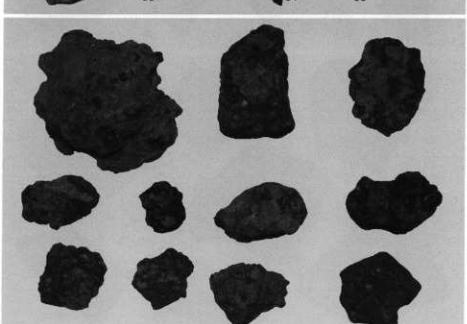
図版10　遺物写真（1）



七分一古大門遺跡
出土遺物（4）



七分一古大門遺跡
出土遺物（5）



七分一古大門遺跡
出土遺物（6）鉄滓

図版11　遺物写真（2）

報告書妙録

ふりがな	ひみしないいせきはっくつちょうさがいほういち
書名	氷見市内遺跡発掘調査概報Ⅰ
副書名	七分一地区経営体育成基盤整備事業に伴う試掘調査ほか
シリーズ名	氷見市埋蔵文化財調査報告
シリーズ番号	第58冊
編著者名	廣瀬 直樹
編集機関	氷見市教育委員会
所在地	〒935-0016 富山県氷見市本町4番9号 TEL 0766(74)8215
発行年月日	2011年3月25日

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	発掘期間	発掘面積	発掘原因
七分一B遺跡	氷見市七分一	16205	259	36°52′06″	136°57′00″	20101105	72㎡	試掘・確認調査
七分一堂口遺跡	氷見市七分一	16205	372	36°51′57″	136°57′32″	20101018 ～20101021	456.7㎡	試掘・確認調査
七分一古大門遺跡	氷見市七分一	16205	395	36°52′19″	136°56′52″	20101022 ～20101104	384.9㎡	試掘・確認調査
松田江北遺跡	氷見市窪	16205	239	36°50′19″	136°59′52″	20100510	60㎡	試掘・確認調査
朝日大山遺跡	氷見市幸町	16205	361	36°51′23″	136°59′00″	20100510 ～20100513	217㎡	試掘・確認調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
七分一B遺跡	散布地	古代 近世	なし	古代須恵器	上庄川の氾濫原か。
七分一堂口遺跡	散布地	古代 中世	溝	古代土師器 中世珠洲焼	上庄川の氾濫原か。
七分一古大門遺跡	散布地	古代 中世 近世	土坑 ピット 溝	古代須恵器 中世珠洲焼 近世越中瀬戸	土坑・ピット・溝等を検出。遺物は古代を主体とする。製鉄関連遺跡か。
松田江北遺跡	散布地	不明	溝	なし	
朝日大山遺跡	散布地	近世	土坑	近世磁器	

要約

七分一地区経営体育成基盤整備事業に伴い、七分一B遺跡・七分一堂口遺跡・七分一古大門遺跡の試掘調査を実施した。七分一B遺跡及び七分一堂口遺跡では若干の遺物が出土したものの、全体に上庄川の氾濫原である可能性が高い。七分一古大門遺跡では、調査区中央、北側の丘陵裾部で遺構が検出され、8世紀代を中心とする遺物が出土した。検出された遺構は溝・土坑・ピット等である。また鉄滓が多く出土し、古代の製鉄関連遺跡の可能性がある。遺構・遺物が確認された七分一古大門遺跡の5,236㎡を保護対象と判断した。

松田江北遺跡では遺構・遺物とも確認されなかった。朝日大山遺跡では近世磁器が出土し、土坑が検出された。以上、2遺跡については、開発実施と判断した。

平成23年3月22日印刷
平成23年3月25日発行

氷見市埋蔵文化財調査報告第58冊

氷見市内遺跡発掘調査概報Ⅰ

七分一地区経営体育成基盤整備事業に伴う試掘調査ほか

編集・発行　氷見市教育委員会
〒935-0016
富山県氷見市本町4番9号
☎0766(74)8215

印　　刷　小間印刷株式会社